

みんなにやさしい、特別支援教育（8）

個別の支援計画を学年以外の先生も交えて学年の先生方に話し合っていたことは、個別の支援計画を担任一人が書くことは、子どもの様子を知っているから、そう難しいことではないでしょう。でも、学年や担任以外の教師も入って、子どもを語ることによって、日頃は気づかないことを担任も知るだろうし、担任以外の教師も学年の子どもたちについて知ることができるのです。そうすれば、学年の中で協力できることはないか、担任以外で支援できることはないかとの役割分担が必要になってきます。学級が多くなればなるほど学年教師の団結も大切ですし、学年で子どもたちを見ていくことが大切です。また、複数の教師で子どもを見ることによって、支援が必要で無いと思われがちな子どもたちの中にこそ支援が必要な子どもたちがいることにも目を向けることができると思います。なぜなら、小学校で、教師にとって「手のかからなかった子」「気にならなかった子」が、中学校や高校で不登校になったり不適応になったりする現状があるからです。その子たちに、小学校の段階で手をさしのべてやることはできなかったのかと思うことがあります。教師にとって「手のかからなかった子」「気にならなかった子」の中に、本当は支援の手をさしのべなければならなかった子がいたのではないかとの思いがあります。

文科省では、「特別支援教育とは障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものです。」と示しています。

確かにその通りです。しかし、本当は特別なものでなければいけないのでしょうか。本当は、特別なものではなく当たり前のことだと思うのです。特別なものと思ってしまうから、「うちの学級には支援を必要とする子はいない。」と思ってしまうのですね。特別支援教育の特別という文字を消してしまいたいものです。

これも、ある保護者の方のブログに、次のように書かれていました。

いい子ってどんな子？

よく、『〇〇ちゃん、いい子だね』ってほめ方を耳にします。

その度に『いい子って、どんな子のことを指して言うんだろう』って考えてしまいます。・・・なもんで、思い返してみると、僕自身子どもたちに『いい子だね』ってほめたことはありません。たぶんその『いい子』という言葉に???があるからだろ

うと思うのですが・・・

だから、具体的にほめることのほうが多いかな。

『早く着替えられたね』とか、『きれいに歯磨きできたね』とか。

個人的にはあまり『いい子』って言葉、好きじゃないんです。

じゃ、いい子ってどんな子のことなんでしょうね。

僕は何だか『親にとって都合のいい子』がだいぶ含まれているような気がするんだけどなー・・・

親がその時して欲しいことを、すぐにしてくれる子とか、『だめ』と言ったらしないでいてくれる子とか・・・

それに、『いい子』がいれば『悪い子』もいるわけでしょ。

『悪い子』ってどんな子なんだろ・・・

あばれる子？ やんちゃを言う子？

友達とケンカをする子？ 宿題を忘れる子？

親が決めた習い事や塾に行かない子？

でも・・・

子どもってそんなもんでしょ。

それが子どもでしょ。

ある意味それが子供らしさかもしれないって思うんですよ。

それに、『いい子』って言葉には、集団っていう枠にはめ込んじゃうようなイメージが僕にはあります。

確かに生活していく上で、社会のルールを学び、そして守るのは大切だと思うけど、大人が決めた常識に押し込めちゃうのは、同時に子どもの可能性っていう芽を摘んでしまう危険もあるような気がします。

それから、大人は『いい子』であることを無理強いしてはいけないんじゃないかなあ。

例えば言葉。

『ありがとう』とか『ごめんなさい』

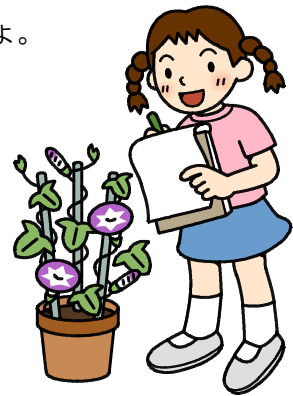
ありがとう・・・

ごめんなさい・・・

とても素敵な言葉ですよ。

でも、強いて言われたのだとしたら、そこにどれだけの価値があるんだろうと思います。

言ってもらった側の心にも響かないんじゃないかな。



感謝の言葉や謝罪の言葉が自然と口をついて出る時、その言葉は本来の意味を持つような気がします。

だから、子どもたちに教える時、『強いる』のではなく、『導き出して』あげられたらいいなあと思っています。

・・・が・・・

何だか僕、すっごく難しいこと言ってますね。

正直、今の僕にはできていないし、これから実践していく自信もないし・・・(かなり弱気)

でも、うちの子どもたちがもう少し大きくなった時、『ありがとう』と言う表情に輝きがあったら、『ごめんなさい』と言う言葉の中にお詫びの心が感じられたら、この考えは少しは正解だったのかもしれない。

さっき、『いい子』って言葉はあまり好きじゃないって言いました。

でもベッセのキャッチコピー(?)になってる『みんないいんだよ』は好きです。なぜなら、『みんな～』だから。

優しい子も、優しくなれない子も、

勉強ができる子もできない子も、

スポーツが得意な子も苦手な子も、

そして、障害がある子もない子も・・・

子どもがテーブルを汚してしまった。

きれいにしようとして拭いたら、その汚れがもっと広がってしまった・・・

その時に、『何やってんだよ！ もう～！！』って怒ってしまうのではなく、きれいにしようとしたことに目を留め、逆にほめてあげられるような親になりたいです。

無理だろうけど、ちょっとでも近づきたいなあ・・・

